

【ポスター発表】

**精神保健福祉手帳の等級と国連国際統計のワシントン・グループの指標の関係**

ー長野県飯山市における調査結果からー

○ 長野保健医療大学 北村 弥生 (会員番号 003839)

キーワード：生活のしづらさなどに関する調査、不安、憂うつ

**1. 研究目的**

本研究では、国際連合の国際障害統計のワシントン・グループが作成した指標が日本の精神保健福祉手帳の等級とどのような関係にあるかを明らかにすることを目的とする。ワシントン・グループの指標は、「生活のしづらさなどに関する調査（厚生労働省）」および「国民生活基礎調査（厚生労働省）」での使用が検討されているからである。その結果は、国連の障害者権利条約で提出が義務付けられている政府レポートに利用される見込みである。ワシントン・グループは、国際比較可能な障害発生率を得るために国勢調査で使う指標を開発することを目的として 2001 年に立ち上げられ、2006 年に短い質問群（ショート・セット、WG-SS）を作成した。短い質問群は、視覚、聴覚、移動、記憶と集中、コミュニケーション、セルフケアの 6 項目から構成され、「障害者」は「全くできない」「かなり苦勞する」「少し苦勞する」「苦勞しない」の 4 つの選択肢のうち、「全くできない」と「かなり苦勞する」を選択した者と定義された。この定義では、知的障害と精神障害は捕捉されにくいことは指摘されており、短い質問群強化版では「上肢」の他に「不安」と「憂うつ」について、頻度と程度の組み合わせを使うことが推奨されるようになった。ワシントン・グループの指標は障害者発生率の国際比較のために開発され、各国のサービス提供のための基準ではないが、どのように異なるかのデータはわが国には、まだない。

**2. 研究の方法**

5 年ごとに実施されている「生活のしづらさなどに関する調査」の次期調査の設問案の妥当性を検証するための事前調査（以下、R2 事前調査）として長野県飯山市（人口約 2 万人）において、障害者手帳所持者 1,221 名（身体 867 名、療育 154 名、精神 200 名）を対象に、郵送法による質問紙調査を実施した。飯山市は長野県北部に位置する豪雪地帯で、新幹線の停車駅である。589 名（48.2%）から回答があり、内訳は身体 407 名、療育 75 名、精神 80 名、重複 19 名、不明 8 名であった。精神保健福祉手帳所持者 85 名について、WG-SS で「障害」と分類された人数、「不安」の頻度と「憂うつ」の頻度が「週 1 回以上」の人数を集計した。また、等級ごとに「不安の頻度」と「憂うつ」の頻度の分布を集計した。さらに、「不安」の頻度と程度の関

係、「憂うつ」の頻度と程度を集計した。

### 3. 倫理的配慮

長野保健医療大学および共同研究者が所属する国立障害者リハビリテーションセンターの研究倫理審査委員会から承諾を得た。本研究は、令和元年度～3年度 厚生労働科学行政推進調査事業費（障害者政策総合研究事業）「現状の障害認定基準の課題の整理ならびに次期全国在宅障害児・者等実態調査の検討のための調査研究」（研究代表者：飛松好子）により行われた。

### 4. 研究結果

精神保健福祉手帳所持者 85 名に対して、以下の 3 点が明らかになった。

- ① WG-SS で「障害」と分類されたのは 19 名 22.5%であった。
- ② 不安と憂うつの頻度が「週 1 回以上」を加えると、「障害」と分類されたのは 57.5%であった。
- ③ 不安の頻度と程度から「障害」と分別されたのは 24 名 28.2%、憂うつの頻度と程度から「障害」と分別されたのは 22 名 25.9%であった。

### 5. 考察

日本の障害認定基準による精神保健福祉手帳所持者は、ワシントン・グループの指標のうち WG-SS では 2 割程度、WG-SS Enhanced では 6 割程度しか捕捉できないことが明らかになった。WG-SS による捕捉率は先行研究と近い値であった。すなわち、ワシントン・グループの指標は日本の障害認定基準とは異なる視点で作成されていることから、ワシントン・グループの指標による統計から日本の障害福祉制度を直接に評価することは難しいことに留意が必要なことが確認されたと考える。ワシントン・グループの指標は国際比較するために広義の「障害」を定義するからである。

本調査では対象数が十分でないことは課題である。次期の「生活のしづらさなどに関する調査」では WG-SS に加えて「不安」「憂うつ」「上肢」項目からなる WG-SS Enhanced（全 12 問）を使用することで、精神保健福祉手帳所持者についてデータを増やすだけでなく、精神保健福祉手帳非所持で自立支援受給者および谷間の障害と言われる発達障害と高次脳機能障害をワシントン・グループの指標がどの程度捕捉するかを明らかにすることが期待される。「国民生活基礎調査」では、すでに K6（うつ・不安障害のスクリーニング指標）が使用されていることから、ワシントン・グループの WG-SS Enhanced を使用すれば、K6 とワシントン・グループの「不安」と「憂うつ」の関係も明らかにすることができるのは興味深い。